

特集 まちに大学のある暮らし

現在の県立広島大学三原キャンパスの前身である広島県立保健福祉短期大学が平成7年に三原に開学して今年で14年目となります。

保健・福祉・医療の専門家を養成する大学では、保健福祉学部の5学科約800人の学生が大学生活を送っています。

三原市で学生時代を過ごした卒業生も全国で活躍しています。

大学は、私たちの暮らしをどのように潤し、活力を与えてくれるものでしょうか。

今回の特集は、地域の人に大学を知ってもらい、大学が身近な存在となるように大学の活用術、大学が行なっている事業などを紹介します。

大学祭で地域とのふれあい

11月15日・16日、今年で14回目となる浮城祭が開催されました。

「大鳴祭く地域・絆・笑顔く」をテーマに1・2年生の実行委員191人が中心となり、6月から準備を進めました。

各会場では、学生が趣向を凝らした模擬店やステージ発表、大学の特色を生かした健康に関するコーナーなどで盛り上がりを見せました。

特に骨密度・体脂肪測定コーナーは、1時間待ちになるほどの人気で1日約200人が訪れました。

体育館では、子どもたちが楽しめるたぐささんのコーナーがあり、風船

釣りやボール投げを楽しむ親子の姿が見られました。今年のお祭りとおおり、地域との絆を大切にしたい、笑顔あふれる大学祭となりました。

協定書の締結

市と県立広島大学は平成18年4月7日に「包括的連携・協力に関する協定」を締結しました。

この協定は、これまで培ってきた市と大学の連携・協力の実績をさらに強化し、市は地域課題の解決や住みよいまちづくりをめざし、大学は地域に根ざした教育・研究の充実と地域社会への貢献を図ることを目的としています。市ではこの協定に基づいて大学とともに、地域の発展や振興につながる取り組みを推進しています。



▲包括協定の調印式 五藤市長(左)と赤岡学長(右)



▲子どもたちが楽しめるイベントも盛りだくさん



▲体力測定を通じて交流も深まります



▲大学祭実行委員長 佐々木明日香さん



▲沼田東町 中野皓さん、中野節子さん



▲皆実四丁目 大松寿美子さん(左)、今田みや子さん(中)、村岡美恵子さん(右)

みんなで作りあげてきた大学祭によって、多くの笑顔が会場に広がったと思います。地域の人に大学を知ってもらえるいい機会になりました。

大学祭に来るのは今年で3回目になります。孫と来て、子どもと来て楽しかったので、今回は夫と一緒に来ました。学生とふれあえるので自分も元気になります。

今年も骨密度測定を楽しみに来ました。普段健康を気にしつつも、なかなか機会がないので、大学祭での測定はとてありがたいです。来年も3人で誘い合って参加したいです。

三原シティカレッジ

地域連携事業の一環で平成17年度に始まった三原シティカレッジは、地域住民を対象とした「市民講座」と専門職のスキルアップを図る「専門職講座」を開催しています。

県立広島大学の教授などが講師となり、一般から専門職まで幅広い受講者を対象としています。今年開催された市民講座を紹介します。アンケート結果などから市民のニーズに対応したものとるように企画をしています。

おもしろいぶつり実験 音のふしぎ・気化の不思議

身の回りにおける不思議をみつめて、どんなことにも好奇心を持つてもらうと小学生を対象とした講座を開催市内の小学3～6年生の児童18人が参加し、物理の実験などで夏休みの一日を過ごしました。

児童たちは「音にとって空気が大事」とメモをとりながら、講師の話を熱心に聞き入っていました。

その後、参加者は二人一組となりタコ糸やゴムひもなどを使い、糸電話作りに挑戦し、音の伝わるようす

を楽しんでいました。

近所の友達を誘って参加した田野浦小学校4年の小澤結子ちゃんは「タコ糸と銅線では音の聞こえ方が違って面白かった。また参加してみたいです」と声を弾ませていました。



▲実験のようすを見つめる児童たち

メンタルヘルスのための コラージュ

心の健康を維持・増進するためのコラージュを体験してもらおうと開催された講座に約30人が参加しました。コラージュは、新聞や雑誌などから好きな文字や写真、絵を自由に

切り抜いて台紙に貼ることで、自己理解やストレス解消の効果があるとされ、心理療法としても用いられています。

コラージュ作成では、全国各地の写真や台紙に並べ旅行した気分を味わう人など、表現方法はさまざまですが、どの人も楽しそうに作業していたのが印象的でした。

作成後、数人の作品を紹介しながら講師による心理カウンセリングも行われました。

50代の女性は「気付いていなかった自分の内にある感情が表現されたような気がして驚きました」と充実感に満ちた表情で話してくれました。



▲思い思いに手を動かし、イメージを形へ

英語学習への誘い スクリーンイングリッシュ カサブランカ

大学の講義室には、英語好きの25人が集まりました。世界中の映画ファンにとって不朽の名作と言われる「カ

サブランカ」。モノクロのスクリーンに映し出される主人公二人のアップと別れのセリフ。教室内には映画の音声だけが響きます。英語のセリフをひも解きながら講義は進みましたが、うって変わって後半は、ゲーム形式で英語のコミュニケーションを楽しみます。ユーモアたっぷりの講師のやりとりで教室内は英語の話し声と笑顔があふれました。

友人に誘われて参加した宮浦五丁目目の和田由香利さんは「来年は子どもと一緒に参加します。大学でこんな体験ができるなんて」と楽しそうに話してくれました。



▲楽しくコミュニケーション！会話はすべて英語です



保健福祉学部 看護学科4年
田村 翼さん

三原の魅力を伝えたい
県立広島大学の魅力は、地域の人とふれあう機会が多いことだと思います。さつき祭りや三原病院でのボラ

この4年間、たくさんの方々と三原で過ごせたことを幸せに思います。県立大と豊かな自然のある三原の魅力を就職する広島市の人にも伝えたいです。



▲沼田川の清らかさを体感。地域の人と川での競技を楽しみました

大学生が語る

みはら〜このまちに暮らし〜

9月には沼田川で開催された「かわりんピック」に看護学科の友人4人と参加しました。こんなにきれいな川が大学の近くにあったのかと驚き、お気に入りの場所となりました。卒業の思い出にもなりました。

このまちで今、とてもいい経験をきっかけは、自分の居場所が欲しかったこと。サークル感覚で入った自治会活動が、仲間や地域の人の絆を深め、大学生活をより充実させてくれています。



保健福祉学部 作業療法学科2年
武田健吾さん

このまちで今、とてもいい経験を

大学祭の運営をはじめ、さつき祭りにはイベントの手伝いや清掃などボランティアとして参加しています。苦労もあるけれど、目標を仲間と達成できる喜びがやりがいです。また、地域のひとふれあう機会が増え、少しずつ人とのつながりが広がっていることもうれしいです。活動でお世話になった地域の人に、まちで声をかけてもらったこともあります。

三原に住み始めて2年。こうした経験を通じて、今では三原を身近に感じられるようになりました。大学、地域での貴重な経験が、自分の幅を広げてくれていると感じます。



▲活動する自治会メンバー。浮城まつりややっさ祭りにも参加しています

保健・医療・福祉の研究で まちの活性化を



三原地域連携センター長
大塚 彰教授

地域連携センターは、地域に開かれた大学の窓口として活動しています。市民を対象とした主な活動としては、キャンパスツアーや出前講座、シテイクレッズがあります。キャンパスツアーの参加者は校内を見学したり、学食を利用したりしています。このツアーで図書館が市民に開放されていることを知ったという人もいて、大学が開かれた機関であることを知ってもらいたい機会です。福祉や医療の講演などを地域に出向いて行う出前講座や、保健や子育ての分野はもちろん、それに加えて歴史など皆さんの希望にあわせた内容も取り入れているシテイクレッズはどの講座も盛況です。

また三原キャンパスでは、砂浜ウォークや子育て支援など特色のある研究も行なっています。

今後も保健・医療・福祉の研究を生かしながら、まちの活性化に貢献していきたいと考えています。

三原健康やっさ体操が誕生 市民と大学と市の思いがひとつに

10月26日、三原の伝統芸能である三原やっさ踊りをモチーフとした「三原健康やっさ体操」が完成し、保健福祉まつりで披露されました。

この体操は、市民からの「三原やっさ踊りを取り入れた体操を作ってほしい」という要望に、市が県立広島大学に開発を依頼したものです。



▲三原健康やっさ体操を踊る市民と花を添える三原やっさ踊り振興協議会のメンバー

保健福祉学部の塩川満久准教授が三原やっさ踊り振興協議会のメンバーや同大学の学生の動きを分析し、高齢の人にも安心して運動でき、介護予防に生かせる体操を考案しました。

約4分の体操は、やっさ踊りの「笑顔」や「まねき手」、「二段ばね」、「体のひねり」を取り入れ、座ったままでも踊れるのが特長です。やっさ踊りの半分のテンポで動けるため、体力に自信のない高齢の人も気軽に取り組みます。

体操を考案した塩川准教授は、「体操は動きやすく覚えやすいもので、しかも普段の生活やウォーキングで使われない筋肉が動かせます。自分の役目はみんなが考えたものを形にただけです。自然と身体が動くやっさ踊りの音楽に合わせた体操によって、たくさん笑顔が三原に広がればうれしいです」と話します。

完成披露会に参加した皆実六丁目の山本豊子さんは、「三原にみんなと一緒に踊れて楽しめる体操ができて、うれしいです。健康な生活をずっと続けられるよう早く体操を覚えたい。この体操で、来年のやっさ踊りにも出場したいです」と笑顔で語りました。三原やっさ踊り振興協議会の花渡

武司さんは、「三原やっさ踊りとともに三原の伝統として、皆さんに親しんでもらえるものになれば」と期待を込めました。



▲体操を考案した塩川准教授と三原やっさ踊り振興協議会の花渡さん

DVDとビデオで三原健康やっさ体操を覚えよう!

市保健師が体操の指導をするDVDとビデオを作製しました。介護施設や町内会など希望する団体に配布します。また、個人には1か月間貸し出しをします。詳細は、保健福祉課(☎0848⑦6359)へ問い合わせてください。



▲DVDとビデオで市保健師が体操を指導

大学がまちを元気にする!

大学は、ずっと以前からそこにあったかのように、すっかり三原のまちにとけこんだ感があります。

市では、砂浜ウオーク、やっさ体操、認知症予防、発達障害支援など、大学の教育的機能や知的資源を施策のさまざまな分野で活用しています。

三原キャンパスの研究分野である保健・医療・福祉の領域は、私たちにとって、健康に関わる大変身近なテーマですが、大学の研究成果は観光・定住、伝統芸能の継承、まちおこしなど、保健福祉分野を超えて幅広い効果をあげています。

今後も、大学の知的財産を生かし、産・学・官の連携のもと、市民の皆さんが元気になる、三原市が活気づくような施策を展開していきたいと考えています。まだ大学に一度も足を運んだことがない人も、キャンパスツアーなどを利用して訪ねてみてください。大学は三原のまちの大きな社会資源です。「まちに大学のある暮らし」を実感してもらえたらうれしいですね。



政策企画課 企画調整係長 松島弘泰